



足尾銅山記念館

足尾銅山記念館は、日本の近代化を支えた足尾銅山の歴史と記憶を次世代へ継承することを目的に計画された。辰野葛西事務所が設計に関わり、長い間失われていた足尾鋳業所（事務所）本屋を創建時の位置に再建し、展示施設として再生した。加えて現存する煉瓦書庫（国登録有形文化財）を保存再生し、産業遺産が集積する掛水地区全体の修復を目指した。残されていた史資料を徹底的に調査・分析し、推測を排した復元を実践した。復元部分と現代的に整備した部分を明確に区分することで、歴史的真正性と現代建築としての機能性を高い次元で両立している。

本施設は、過疎化が進む足尾において、周辺に残る歴史的建築群との連続性を回復し、地域固有の景観形成とまちづくりに大きく貢献している。地域の記憶を取り戻す拠点となり、栃木県の歴史・文化資産の保存活用と魅力発信に寄与する建築である。

建築概要	
所在地	栃木県日光市足尾町2281-1
創建年	1911（明治44）年
主要用途	博物館
構造規模	木造一部組積造、地上2階
敷地面積	4,440.99㎡
建築面積	686.33㎡
延床面積	1,329.65㎡
竣工	2025（令和7）年3月

建築主コメント
一般社団法人古河市兵衛記念センター

古河グループは、創業者古河市兵衛が1875年に新潟県草倉銅山の経営に乗り出した時を発祥とし、その2年後に経営を始めた足尾銅山は、我が国の産業近代化の歴史に特筆される技術革新を行い日本一の産銅量を誇りました。足尾はその後の多角経営への展開によりグループ形成の礎を築いた地です。

古河グループは創業150周年記念事業として足尾にかつて建築された足尾鉱業所事務所を「足尾銅山記念館」として往時の場所に復元しました。建設においては設計者、施工者をはじめ関係者に多大なご尽力を賜り、昨年開館にこぎつけました。

建造物および展示物を通じ、創業者の思いと古河グループが日本の近代化に重要な役割を果たしてきた証を伝えて参ります。

設計者コメント
株式会社日本設計

100年前に足尾掛水の地に建っていた足尾銅山鉱業所事務所を、木造で復元したい。そのようなお話をいただいたのは、2020年の暮れのことでした。

そこから私たちは、「徹底的に推測を排除した復元」など基本方針として掲げ、足尾銅山鉱業所事務所の再建によりその周辺に広がる歴史的地区を修復するというコンセプトを策定しました。

設計にあたっては、収集した創建当時の写真や文献などを細部にわたり精査しながら作業を進めました。竣工まで5年を要しましたが、その過程で建築から展示に至るまで細かな点についてクライアントや施工者と意見を交わし、ともに検討を重ねた時間と経験は、私たち設計者にとってかけがえない財産となりました。

施工者コメント
古河林業株式会社

往時の姿に近い歴史を感じる建物復元を目指し工事に臨みました。

資料は一部の図面と写真のみでしたが、調査の過程で書庫壁部分の基礎下部に煉瓦の残存が判明した為、これを搬出し展示物として活用することができました。

建物を可能な限り往時の姿にするよう、重要文化財・社寺仏閣の施工実績を持つ宮大工、銅屋根板金工、天然スレート工の方々と幾度となく納まりを検証し、原寸図を起こし、型板を繰り返し作成することで、当時の意匠に沿って建物を復元しました。

施工環境はほぼ毎日のように雨が降り、11月から3月にかけては霜や凍結が続く厳しい状況でしたが、「安全専一」のもとに作業を進め、無事故・無災害で工事を完遂することができました。



建物位置

着手前の敷地写真
かつては、広場やテニスコートとして利用していた。

日光市の発掘調査
確認された創建時の基礎位置。
建物配置の手がかりとなった。

※1

建物全周のすきとり調査
地中の痕跡を確認し、正確な位置決め
の根拠となった。

基礎位置を反映した敷地全景
建物の配置を高い精度で決定。
**

外装意匠の復元

創建時の外観写真
外観意匠の主要な史資料となった。

※2

写真から各種寸法の割り出し
細部の形状を読み解いた。

※2

実物大モックアップ
外装のディテールを検証。

復元された外観 **
写真や図面の検証に基づき意匠を再現。

プランと内装復元箇所の決定

創建時の平面図
平面の復元を決める重要な史資料。

※2

残されていた創建時の室内写真
創建時の写真はこの4枚のみ。

※2

左記創建時写真の撮影箇所
内部復元の範囲を決定した。

※1

復元対象を色分けした平面図
2階の3室を創建当時の姿に再現。

内装意匠の復元、色の設定

創建時の室内写真
残されていたのは3室のみだった。

※2

写真から各種寸法の割り出し
創建から改変のない足利市庁舎の部分
写真も使用し、復元根拠とした。

※3

事例の明度を基に仕上色を決定
創建写真と岩手銀行旧本店本館の白黒
写真を用い、明度を比較検討。

復元された内部空間 **

□建物全体の復元プロセス

※1引用：日光市足尾銅山跡調査報告書（令和2年3月） ※2：創建時の史資料 古河機械金属所蔵 ※3：足利市所蔵

